

# 「寒い季節からこども達を守る」

日時

2012年1月14日(土) 13:00~14:30

場所

神戸こども初期急病センター 2階「なぎさホール」

あいさつ

公開講座

1. 13:00~13:30

今シーズンのインフルエンザ

講師 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門  
特命教授 竹島泰弘

2. 13:30~14:00

寒い時期のおなかの感染症

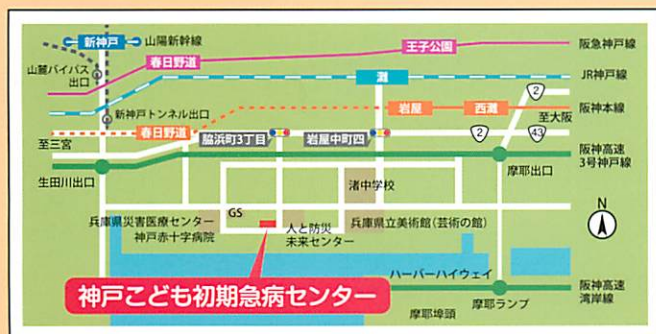
講師 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門  
特命助教 森貞直哉

3. 14:00~14:30

困ったときの薬の使い方

講師 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門  
特命助教 池田真理子

参加費  
無料



神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番1  
(HAT神戸内)

● 阪神電車「春日野道」駅から南へ徒歩約8分

● JR「灘」駅南口より南へ徒歩18分

● お問い合わせ先 ●

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門

TEL (078) 382-6090

主催：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野  
こども急性疾患学部門(寄附講座)

後援：神戸市・神戸市医師会・神戸市小児科医会

## 今シーズンのインフルエンザ

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野こども急性疾患学部門

竹島 泰弘

今年も、インフルエンザの季節がやってきました。昨年末から少しずつ患者さんの数が増えてきており、注意が必要です。2年半前に新型インフルエンザの大流行がありましたが、今シーズンは、今のところA香港型が多くを占めています。

インフルエンザ対策として大事なことは、(1) 先ず、かからないこと、(2) かかったら早く治すこと、(3) 重篤な合併症を予防すること、です。中でも、かからないための予防がもっと重要で、そのためには、手洗い、マスクの他、日ごろの十分な休息や、人込みを避けることも大切です。予防接種も一定の効果が示されています。

治療に関しては、前シーズンから、新たなインフルエンザの薬が使えるようになりました。今までのタミフル、リレンザもそうですが、発症の早期に使うことが大事です。

合併症としては、脳症、重症肺炎などがあります。

今回の講演では、今シーズンのインフルエンザの状況、インフルエンザの予防・治療について、ポイントを説明します。

MEMO:

## 寒い時期のおなかの感染症

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門

森貞 直哉

毎年寒い季節になると「嘔吐下痢症」が流行します。この冬場の嘔吐下痢症は、ロタウイルスとノロウイルスが代表的な原因ウイルスとなります。ロタウイルスは主に乳幼児がかかるウイルスで、嘔吐と下痢が主症状ですが、けいれんや脳症を起こすこともある病気です。このロタウイルスに対しては最近予防接種が行われるようになりました。ノロウイルスは乳幼児からお年寄りまで全年齢がかかるウイルスです。主症状はロタウイルスとほぼ同じですが、感染力が強いため自宅や施設などでの感染予防が大事になります。

今回はこの二つのウイルスについてのお話を中心に、自宅でできる治療法（経口補水療法など）や予防法のお話をさせていただきたいと考えています。

MEMO:

## こまったときの薬のつかいかた

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野こども急性疾患学部門

池田 真理子

あの病院のくすりは良く効く、このクリニックの薬はきつい・・・などというお話をよく耳にします。はたして、小児の外来受診の最大の理由である「風邪」に本当に「良く効く」お薬はあるのでしょうか？実は小児のかぜの治療薬で、効果が本当に実証されているものはほとんどないことをみなさんご存じですか？効かないばかりか、自然に治るはずの風邪の治療をかえって長引かせてしまう薬もあるのです。

日本は豊かな国で、小児医療には補助制度があり、小児は無料でいつでも医療機関を受診でき、無料で薬を処方してもらえます。風邪を1日でも早く治してあげたい、というご家族のお気持ちと、出来ることをしてあげたいという医療者側の気持ちから、日本のお子さんは何度も医療機関を受診し、沢山の風邪薬を処方されてきました。しかしごく最近になり、これらの薬の効果が再検討されはじめています。不要な薬から子どもを守るために、ご家族、医療者が出来ることは何でしょうか。くすりのイマドキの情報をほんの少し、提供させていただきます。

MEMO: